

2020年11月20日
イオン心をつなぐプロジェクト

アジア各国で東日本大震災時の支援に対する感謝イベントを開催

～「森に守られたコミュニティ」への感謝と学びの共有～

イオンは、復興庁東日本大震災発災10年復興発信事業の一環として、イオン心をつなぐプロジェクトが中心となり、アジア各国に対し東日本大震災時にいただいた支援へ感謝の意を表明するイベントを開催しました。

復興庁は、東日本大震災の発災から10年を迎えることを踏まえ、これまでの復興に際し

- ① 民間団体等により行われた支援のノウハウ・課題の共有
- ② 各地から寄せられた様々な支援に対する感謝の意を、諸外国を中心に発信の考え方を踏まえた事業を民間団体等より募集しました。

イオンは、この事業の内容に賛同し、

- ① 東日本大震災に際して海外からいただいたお見舞いと励ましのメッセージに感謝の意を表明
- ② 震災を通じて得られた「イオンふるさとの森」の津波減災効果の知見を、11月5日「世界津波の日」を機会として津波被災経験を有するアジア各国に伝える

このようなコンセプトの事業企画を提案し、採択されました。

今回の事業はテーマを

「森に守られたコミュニティ」～海外の皆さまへの感謝と、私たちの学びの共有～

として、2020年10月23日から11月5日の期間で各国にて展開されました。

具体的には中国、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイ、カンボジアの各国の店舗において震災からの復旧・復興で実践した取り組みをポスターの掲示や動画の上映等を通じて、多くのお客さまにご紹介しました。ベトナムとタイの大型商業施設2カ所では、感染症対策のもと、感謝の意をお伝えする表彰式等のイベントを開催しました。

【ポスターや動画で紹介した内容】

- ・「イオンふるさとの森」の津波減災効果の紹介

国連の定める「11月5日世界津波の日」に向け、10月23日からアジア6カ国のイオンの店舗にご来店約3,000万人のお客さまを対象に、東日本大震災の津波襲来時に「イオンふるさとの森づくり」植樹が緑の壁となり津波エネルギーを減衰させた「森の津波被害減災効果」を紹介しました。

- ・イオン心をつなぐプロジェクトで実践した取り組みの紹介

「イオン未来共創プログラム」の取り組みを紹介しました。東日本大震災の被災地のステークホルダーの皆さまと地域交流型の支援活動として地域課題を現場で体感し、地元農産品の販路拡大を目指した援農ボランティアを行う等、地域活性具現化策の応援をする活動として紹介しました。

<カンボジアで掲示したポスター>



<店舗で動画配信をしたサイネージ>



<開催したイベントの様子>

イベントでは動画の上映や感謝の意をお伝えする表彰式等を実施しました。

ベトナム会場 開催日：2020年11月1日(日)

会場：イオンモールタンフーセラドン



タイ会場 開催日：2020年11月5日(木)

会場：マックスバリュ ラクシー店



イオンは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、アジア各国からの支援に感謝し、東日本大震災の被災地の復興・創生に向け、さまざまな活動を継続的に実施してまいります。

ご参考

■「イオン心をつなぐプロジェクト」について

東日本大震災の翌年、2012年からイオンは労使一体となって被災地の復興・創生を目的とする「イオン心をつなぐプロジェクト」をスタートさせました。

<プロジェクトの目標>

- ・東日本大震災の津波で失われた海岸林の再生を目指す「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」を開始し、2021年までの10年間で東北沿岸部を中心に30万本の植樹をする。
- ・現地へのボランティアを継続的に派遣する。
- ・10年間で30万人が復興ボランティア活動に参加する。

イオン心をつなぐプロジェクトの目標の一つであった30万本の植樹は2019年3月9日に行われた仙台市荒浜地区での植樹祭で達成しました。

また、2016年からは地域課題の解決を支援する「未来共創プログラム」も進めています。

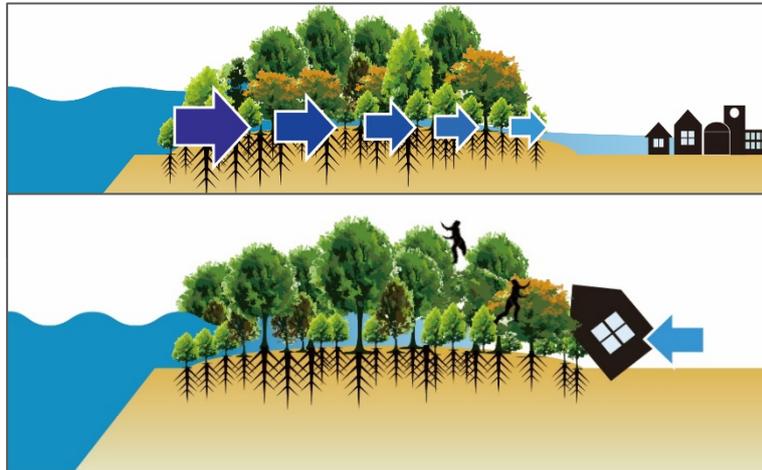
「イオン未来共創プログラム」は地域交流型の支援活動として地域課題を現場で体感し、地元農産品の販路拡大を目指した援農ボランティアを行っています。

■森の津波災害減災効果

津波災害を減災する上で沿岸部に植樹し、森を育てることは大変、効果的な方法です。

また海岸防災林には防風、防砂の効果があり、塩害から農地や建物を守る効果もあります。

<森の減災効果>



津波襲来時、樹木が緑の壁となり津波エネルギーを減衰させ、水位とスピードを下げ、避難する時間をかせぐことができます。

引き潮時、しっかり根付いた樹木が漂流する人やものが沖へ流出することを防ぐことにより命や財産が守られます。

監修 東北大学災害科学国際研究所
所長 今村文彦教授

■イオンの植樹活動

イオンは、植樹活動を「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という「イオンの基本理念」を具現化する活動と位置付けています。新しい店舗がオープンする際にお客さまとともに店舗の敷地内に植樹をする「イオン ふるさとの森づくり」、自然災害や伐採などで荒廃した世界各地の森林の再生を目指す公益財団法人イオン環境財団による植樹、東日本大震災の津波で失われた被災地の緑を取り戻す「イオン 東北復興ふるさとの森づくり」3つの植樹活動を行っています。1991年からの累計植樹本数は1,212万1,718本となりました。